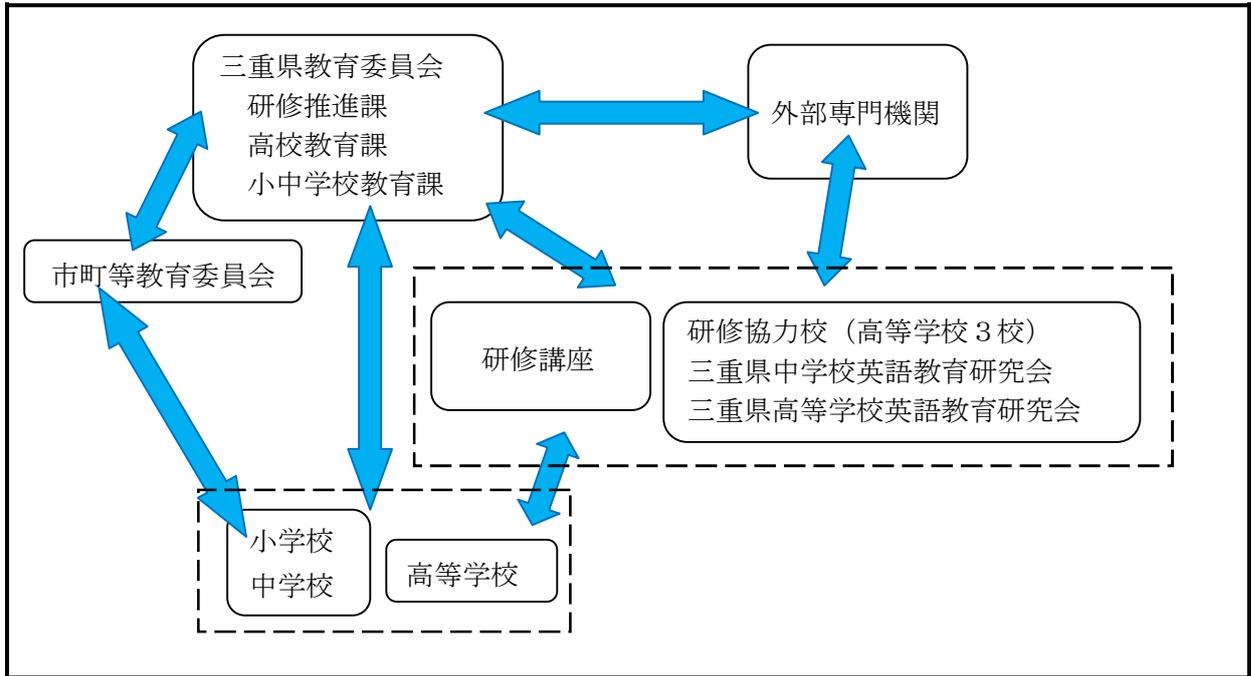


三重県英語教育改善プラン

1. 実施内容

(1) 研修体制の概要



(2) 英語教育の状況を踏まえた目標管理

※現状値は、平成27年度英語教育実施状況調査の結果に基づく

1. 平成27年度の現状及び分析、平成29年度の目標値

①求められる英語力を有する担当教員の全教員に占める割合

- ・平成27年度、中学校は32.0%、高等学校は62.4%
- ・平成29年度、中学校は50%、高等学校は75%を目指す。

②求められている英語力を有する生徒の全生徒に占める割合

- ・平成27年度、中学校は31.4%、高等学校は31.2%
- ・平成29年度、中学校50%、高等学校50%を目指す。

③「CAN-DOリスト」の形式で技能別に設定した学習到達目標の整備状況（設定・公表及び達成状況の把握等の状況）

- ・平成27年度、中学校の設定は21.9%、公表は9.0%、達成状況の把握は11.0%
高等学校の設定は37.2%、公表は5.8%、達成状況の把握は10.5%
- ・平成29年度、中学校の設定は67.0%、公表は67.0%、達成状況の把握は67.0%
高等学校の設定は100%、公表は100%、達成状況の把握は100%を目指す。

④授業における、生徒の英語による言語活動時間の占める割合

- ・平成27年度、中学校は64.7%、高等学校は33.0%
- ・平成29年度、中学校は70.0%、高等学校は60.0%を目指す。

⑤パフォーマンステストの実施状況

- ・平成27年度、中学校のスピーキングテスト回数は2.2回
ライティングテスト回数は1.2回
高等学校のスピーキングテスト回数は0.5回
ライティングテスト回数は0.3回

平成29年度、中学校のスピーキングテスト回数は3回
ライティングテスト回数は3回
高等学校のスピーキングテスト回数は3回
ライティングテスト回数は3回を目指す。

⑥英語担当教員の授業における英語使用状況

- ・平成27年度、中学校は44.7%、高等学校は49.4%
- ・平成29年度、中学校は75.0%、高等学校は70.0%を目指す。

⑦相応の英語力を有する小学校教員の全教員数に占める割合

- ・平成27年度、0.8% *目標設定はなし。

⑧英語担当教員に対する研修実施回数及び研修受講者数

- ・平成27年度、小学校の研修実施回数は14回、研修受講者数は453人
全担当教員5766人に占める割合は、7.9%
中学校の研修実施回数は12回、研修受講者数は298人
全担当教員525人に占める割合は、56.8%
高等学校の研修実施回数は12回、研修受講者数は245人
全担当教員354人に占める割合は、69.2%

平成29年度、小学校の研修実施回数は21回、研修受講者数は567人を目指す。
全担当教員5766人に占める割合は、9.8%
中学校の研修実施回数は27回、研修受講者数は585人
全担当教員に525人に占める割合は、111.4%
高等学校の研修実施回数は21回、研修受講者数は485人
全担当教員に354人に占める割合は、137.0%
を目指す。

2. 目標達成のための手立て

<①に対して>

- ・学校訪問や各研修講座で、英語担当教員に対して、外部検定試験の受験を推奨するとともに、検定料の助成制度等の周知を図る。

<①、⑥に対して>

- ・求められる英語力に達していない教員のうち希望者を対象に、英語指導力向上及び英語力向上をねらいとした研修講座を実施する。また、研修後に効果測定としてTOEICの団体受験を設定する（受験料を補助）。

<②に対して>

- ・英語コミュニケーション能力を向上するとともに、人間的成長を促すため、県内研修施設等において「英語キャンプ」を実施する。
- ・広く世界で活躍できる人材を育成するため、海外の高等学校等に留学する者に対して、高校生海外留学支援金を交付し、留学を促進する。
- ・国際理解を深め国際感覚を養うとともに、グローバルな視点と問題解決能力を持ち、広く世界で活躍できる人材を育成するため、高校生を対象とした海外研修旅行を実施する。

<②、④、⑤、⑥に対して>

- ・生徒に4技能の力を育成するため、英語の授業を英語で行うことや、生徒の言語活動を充実させる授業づくりを図る研修講座を実施し、授業改善を進める。
- ・研修協力校において、英語で行う英語の授業のモデルとなる授業公開を実施し、その普及を図る。

<③に対して>

- ・CAN-DOリストについて、中学校は作成率が低いため、外部専門機関から大学教授を講師として迎え、CAN-DOリストの趣旨を理解し、作成を進める研修講座を実施する。高等学校は、今年度、各校英語科教員代表者に対してCAN-DOリストの作成に係る担当者会を実施し、平成27年度末に全校に作成・提出を求めており、作成率は100%となる予定である。そのため、外部専門機関から大学教授を講師として迎え、活用するための研修講座を2回、実施する。
- ・高等学校では、CAN-DOリストを活用した英語の授業改善に係る指導方法等の実践研究を行うため、研究校4校を指定するとともに、学習指導要領に沿った先進的外国語教育を実践して、その成果を県内の他校に普及する。

<④、⑤、⑥に対して>

- ・英語教育推進リーダー中央研修の受講者を講師とした英語教育推進研修（研修実習を含む）を実施し、小学校については平成29年度までに、中学校・高等学校については平成31年度までに、全関係教員に、その内容を普及する。
- ・英語教育推進研修を通して、英語の授業を英語で行うよう授業改善、教員の意識改革を図る。

<⑦に対して>

- ・小学校教員のうち希望者を対象に、英語指導力向上及び英語力向上をねらいとした研修講座を実施する。

<全体に対して>

- ・各種研修講座において、生徒が主体となりコミュニケーション力を育む授業の1つのスタイルとしてのアクティブ・ラーニングについて、講座内容に取り入れる。
- ・市町教育委員会等と連携を図り、担当指導主事等に研修講座への参加を依頼し、指導・助言に役立ててもらうとともに、各小中学校教員に対して研修講座への参加を促してもらう。
- ・平成29年度までの数値目標を市町教育委員会等も含めた県全体で共有し、取組を推進する。
- ・三重県各教科等担当指導主事連絡協議会、教務担当者会議、市町等教育委員会や学校訪問等で英語教育に関する国の動向や県の取組の説明を行い、英語教育推進に向けた取組を依頼する。

(3) 研修の体系と内容の具体

平成28年度の研修

1 英語教育推進研修

- ・英語教育推進研修（小学校教員124名、中学校教員130名、高等学校教員80名受講予定）英語教育推進リーダー中央研修を受講した県内小中高教諭を講師として、2.5日間（14時間）の研修（研修実習を含む）を行う。平成27年度より実施。小学校については平成29年度までに、中学校・高等学校については平成31年度までに、全関係教員にBritish Councilによる中央研修の内容の普及を図る。参加者対象のアンケートにより研修内容を評価する。

2 CAN-DOリストに関わる研修

①「CAN-DOリスト」作成講座（中学校教員40名受講予定）

文教大学教授阿野幸一氏による講義と演習を行う。「CAN-DOリスト」を作成することの効果を知り、実際に作成する演習を通して、英語の授業改善につなげる方策について研修する。参加者対象のアンケートにより研修内容を評価する。

②「CAN-DOリスト活用のためのワークショップ」（高等学校教員60名受講予定）

③「CAN-DOリスト」活用講座（高等学校教員60名受講予定）

東京外国語大学教授根岸雅史氏による講義と演習を行う。各校で作成した「CAN-DOリスト」を活用するための視点について、授業や評価との関連を考えながら、英語の授業改善につなげる方策について研修する。参加者対象のアンケートにより研修内容を評価する。

3 英語指導力向上及び英語力向上に関わる研修

①小学校英語（小学校教員80名受講予定）

「これからの英語教育のあり方」

文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官の直山木綿子氏による講義を通して、これからの英語教育の方向性を知るとともに、現行の学習指導要領に基づいた英語教育の指導について研修を深める。参加者対象のアンケートにより研修内容を評価する。

②授業づくり（中高英語）・英語指導力向上集中研修（中高教員100名受講予定）

「グローバル教育について理解し、教員の英語力向上を図る」

「コミュニケーション能力を養う英語指導法」

関西外国語大学教授中嶋洋一氏による講義と演習を行う。教員自身が授業で必要となる英語力の向上を図り、英語による授業を行う意欲と自信を一層高めるとともに、生徒のコミュニケーション能力を養う英語指導法について研修し、授業力向上をめざす。参加者対象のアンケートにより研修内容を評価する。

③小学校教師のための英語力アップ講座（小学校教員30名受講予定）

(株)MH International Education のハビック真由香氏による講義と演習を行う。英語の指導に自信を持って当たることができるよう、教室英語とフォニックスに焦点を当て、話すことを中心とした、英語力アップを図るための講座を実施する。参加者対象のアンケートにより研修内容を評価する。

④英語教師のための英語力アップ講座【全2回】（中高教員30名受講予定）

日本福祉大学准教授中西哲彦氏による講義と演習を行う。英検準1級の過去問や時事英語教材を使い、教員自身の総合的な英語力の向上を図る方法を知るとともに、英語で行う英語授業の指導技術についても研修する。英検準1級、TOEFL(iBT)80点、TOEIC730点以上を目指す英語教員を対象とする。2回の連続受講。TOEIC IPテストを実施。参加者対象のアンケートにより研修内容を評価する。

⑤レゴブロックを活用した研修（中高教員20名受講予定）

(株)MH International Education のハビック真由香氏による講義と演習を行う。レゴジャパン株式会社の教育機関向けのレゴブロック教材「Story Starter (ストーリースター)」を使って、生徒に語学力、課題解決力、コミュニケーション力、思考力等を育む指導について研修する。研修は英語で行い、受講者の英語力向上もねらいとする。参加者対象のアンケートにより研修内容を評価する。

4 英語教育研究会との連携

①三重県中学校英語教育研究会（三英研）との連携講座（小中高教員25名受講予定）

授業公開と外部専門機関（大学）の講師（未定）による研究協議。参加者対象のアンケートにより研修内容を評価する。

②三重県高等学校英語教育研究会（高英研）との連携講座（小中高教員25名受講予定）

授業公開と外部専門機関（大学）の講師（未定）による研究協議。参加者対象のアンケートにより研修内容を評価する。

5 研修協力校における公開研究会

・研修協力校における公開研究会【全3回】（各回小中高教員25名受講予定）

授業公開と外部専門機関（大学）の講師（未定）による研究協議。参加者対象のアンケートにより研修内容を評価する。

平成29年度以降の研修

平成28年度と同様の研修を実施予定。ただし、研修後アンケートや、英語教育実施状況調査の結果を検証し、講師・講演のテーマについては変更していく。

(4) 年間事業計画

月	都道府県等の取組	外部専門機関等
4月	三重県高校生等留学フェア（高校生）	
5月	英語教育推進研修Ⅰ（中学校） 「CAN-DOリスト活用のためのワークショップ」（高等学校）	
6月	英語教育推進研修Ⅰ（小学校）	
7月	英語教育推進研修Ⅱ・Ⅲ（小学校） 海外研修旅行（高校生）	
8月	小学校英語 小学校教師のための英語力アップ講座 英語教師のための英語力アップ講座【全2回】 「CAN-DOリスト」作成講座 授業づくり（中高英語）・英語指導力向上集中研修 レゴブロックを活用した研修 英語教育推進研修Ⅱ（中学校） 英語教育推進研修Ⅰ・Ⅲ（高等学校） TOEIC I P テスト 英語キャンプ（高校生）	文部科学省 調査官 直山 木綿子 （株）MH International Education ハビック 真由香 日本福祉大学 准教授 中西 哲彦 文教大学 教授 阿野 幸一 関西外国語大学 教授 中嶋 洋一 （株）MH International Education ハビック 真由香
9月	研修協力校における公開研究会第1回 英語教育推進研修Ⅲ（中学校）	
10月	三英研との連携講座 英語教育推進研修Ⅱ（高等学校）	
11月	研修協力校における公開研究会第2回	
12月	「CAN-DOリスト」活用講座 研修協力校における公開研究会第3回 TOEIC I P テスト 「郷土三重を英語で発信～ワン・ペーパー・コンテスト～」のプレゼンテーション	東京外国語大学 教授 根岸 雅史

	英語キャンプ（小学生、中学生）	
1月	高英研との連携講座	
2月		
3月		
<p>【その他の取組】</p> <p>1 ワークシート作成 英語の授業で活用するためのワークシートを、フューチャーカリキュラムプロジェクトチーム（中学校英語科教員及び県・市町等指導主事等7名）が作成し、県教育委員会HPに掲載する。ダウンロード可能となっており、英語科教員が生徒の実態に合わせて活用している。</p> <p>2 小学校における英語コミュニケーション力向上事業 レゴジャパン株式会社の教育機関向けのレゴブロック教材「Story Starter」を使い、コミュニケーション力の向上を図る。また、フォニックス指導を取り入れ、読み書きの力の育成を図る取組を推進。他にも学校内にEnglish Roomを設けるなど、多面的な取組を進めている。平成28年度は、2市町で実施予定。</p> <p>3 「郷土三重を英語で発信～ワン・ペーパー・コンテスト～」の実施 中学生が、郷土三重についての学習を深め、積極的に対外に発信できる力を育むための取組。英語でまとめた作品を審査し、優秀作品については後日、プレゼンテーションの場を設ける。</p> <p>4 英語キャンプ オールイングリッシュによる英語力向上のための取組（業者委託）。 小学生1日、中学生1泊2日、高校生1泊2日で実施。</p>		

